

1. 開催概要

令和 2 年 6 月 19 日 Web 開催 (Zoom)

参加委員: 千葉一裕, 山田宏, 平林茂, 折田純久, 加藤 真介, 川口 善治, 高橋 寛, 根尾昌志, 長谷川 和宏, 橋爪洋, 中嶋秀明, 藤田順之
杏林舎: 岡田, 中山, 霧間

2. SSRR の概要確認

Editor-in-Chief: 千葉一裕, 担当理事: 山田宏, アドバイザー: 平林茂

委員長: 折田純久

委員: 加藤 真介, 川口 善治, 高橋 寛, 根尾昌志, 長谷川 和宏

今回より: 橋爪洋, 中嶋秀明, 藤田順之

Deputy Editor(DE)業務のみ継続(委員会参加なし): 伊東学, 川上守

委員業務: 編集方針検討および DE 業務: 査読者割付および査読結果をもとに Decision 決定. 判断に悩む場合は EIC と協議(新規委員は 6/20 より DE 業務開始)

DE による immediate reject: SSRR の理念にそぐわない場合, 明らかな欠陥のある場合など.
創刊 2017 年 年 4 回発行, 現在第 4 巻 2 号まで(1, 4, 7, 10 月. 掲載論文は 2 ヶ月前に決定)

査読: JSSR 評議員(査読実績は更新の要件に含まれる), 委員推薦(国内外).

初回査読終了までの期間: 平均 22.5 日(2019 年実績)

査読者リストは月 2 回, 各委員にリストを配信(3 ヶ月に 1 回程度の割合で decline 数を含む)

投稿論文獲得の工夫

a. JSSR 会員

- ・JSSR 総会での PR: セッション間スライドの掲示(内容, TopReviews10)
- ・学会で聴講した演題, 座長を務めた演題について積極的に投稿を求める.
- ・講演で SSRR を宣伝.
- ・海外学会での PR.

b. 海外からの投稿促進

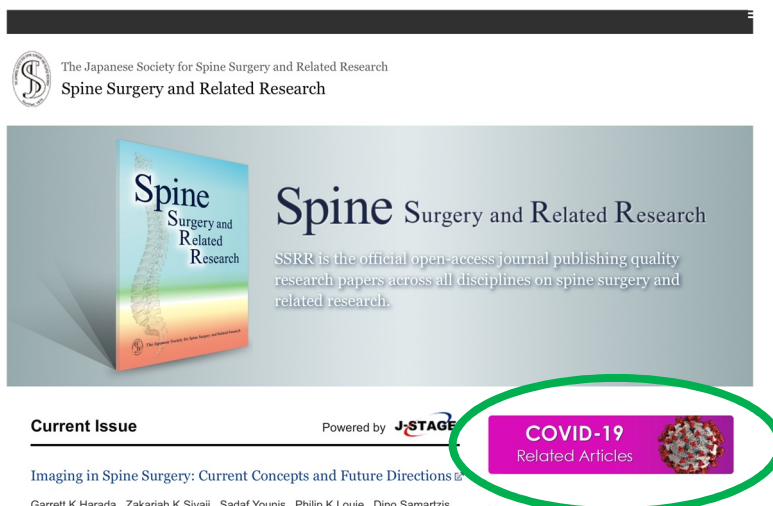
- ・非会員の掲載料無料化(2019/7/31まで 延長 2021/7/31 まで)

c. 終了/中止の施策

- ・JSR 誌へのチラシ同封: JSR 誌オンライン化に伴い終了
- ・日本語査読は終了(H30 年 3 月まで)
- ・過去 3 年間の雑誌著者への案内メール送信: 中止中(個人情報保護ポリシー変更のため)

引用促進の工夫

- ・PubMed 掲載 (2019 年 8 月) , J-stage(2017 年 11 月) , Scopus 掲載
- ・「ひとこと要約」による引用促進 http://ssrr-journal.jp/files/ssrr_abs_jp.xlsx
- ・Review Article は年内の掲載期間が長い方が IF 獲得に有利 : 前半での掲載中心
- ・Advance publication : 公表前 (In press) 論文のホームページ早期掲載
- ・Case Report の Clinical Correspondence (Letter 形式の CaseReport) への移行
- ・COVID-19 特集コーナーの設置 : 関連文献の紹介



杏林舎より報告 :

・投稿状況 : 2020 年 6 月 12 までで総投稿数 105 編 , 採用率 32% であり , 2019 年 1 年間の投稿数 104 編をすでに上回る結果となった . 要因として PubMed への掲載 , および COVID-19 の流行に伴う自粛期間の影響が考えられた

・被引用状況 : 現時点での合計被引用回数は 92 回でありこの半年近くで急増している . 現時点での暫定 ImpactFactor は 0.88 (昨年 0.1 程度) であり , 順調に伸びている . 引き続き被引用をアピールしながら引用数の向上を図る必要性が再確認された

・杏林舎より , さらなる論文の曝露と被引用を図るためのツールである TrendMD が紹介された . 論文検索者の論文検索傾向を AI にて分析し , 関連する雑誌から SSRR の論文を提示するシステムである . 導入の場合は 10 万円 / 月程度であり , 参加・中止は自由にできる . 検索対象の雑誌に脊椎関係の雑誌を選べるかどうかを確認したうえでの検討の方針となった .

3. 審議事項

理事会によって年 4 回 年 6 回刊行への変更 (2021 年 vol.5 より) が承認されたことが報告された .

論文への倫理審査情報の掲載について : 現在では論文本編への倫理審査情報の掲載はされていないことから , 論文の質の担保のため今後の掲載論文にはこれを掲載する方針となった .

査読遅延・拒否への対応について

DE からの依頼に対してこれを拒否する,もしくは遅延する査読者への対応について協議がなされた.その結果,以下のような対策が考案された.

- ・当委員会にて,編集委員会開催時に査読を理由なく拒否・遅延する評議員一覧を確認し,該当する評議員に対して委員会から本人への注意を行う.

- ・評議員再選にあたっては,事前に候補者における査読状況を当委員会にて審査し,明らかな査読拒否・遅延がある場合には要検討候補者として選考委員会への注意喚起を提言する(定款委員会・根尾委員による確認を依頼).

- ・年齢制限:65歳を超える評議員には,査読割り当ての可否について本人の意向を伺う.

次回会議について

2020 年末の Web 会議(後日日程調整)をはさみ,2021 年 4 月の脊椎脊髄病学会総会にて編集委員会を行うこととなった.